油　　差　　五五圓－五九圓
副罐番　　四二圓　手當一圓五〇錢
火　　夫　　三六圓－四一圓
同見習　　一五圓

以上の通りである。

但し船員は船中に在れば碇泊中と雖も食費は會社から支給されて居る。本船の如きも高級船員は一名一ケ月二十三、四圓、普通船員同じく十七、八圓が會社より支給されてゐるので、これも準收入と見ることは出來る。この外に各乘組員とも船中に居室を有して居り、家族を有して別に居所を有するものを除いては、また居所を有してゐても航海中その他の場合で船に居る時は、人間生活の最大本源たる衣食住の中で食住は保證されてゐるわけで、この點陸上の普通サラリーマンに比し優遇されてゐる。

尚、參考迄に高級、普通船員の一日の獻立表を掲げることにする。

（イ）高級船員

朝食は味噌汁、つまみ物一品、お新香
晝食は魚又は肉類野菜を材料とせるフライ又は煮付若は燒いたもの一品、煮込物一品、生物(例へばお刺身)一品、つまみ物一品、お新香それに果物
夜食は晝食から一品減らしたくらひ

（ロ）普通船員

朝食は高級船員と同じ
晝食は魚又は肉類野菜を材料とせるフライ又は煮付若くは燒いたもの一品、煮込物一品、お新香
夜食は晝食に同じ、時にお刺身等の生物が付く

（へ）支出

本船乘組員の支出は、高級船員及び普通船員の大部は家族へ仕送りをして居り、支出の大部分は家族仕送費が占めてゐるが、その他のものは被服費及び日用品費、娯樂費等に分け得る。

支出内譯を見ると、高級船員は

被服費	一ケ月	四圓－二〇圓
日用品費	同	五圓－二〇圓
家族仕送	同	五〇圓－一七〇圓
娯樂費	同	五圓－二〇圓
其他		一〇圓位

以上の通りで、高級船員は給料の六割乃至八割を家族に仕送つてゐる。被服費も船内作業服のみならば四、五圓であるが、上陸等に着る背廣服の製作費を月割にすれば二十圓位に上るわけで、各人により區々である。日用品費は船内に居住しても身邊に種々の品を要するので、その費用であるが、煙草もかなりの額に上つてゐる。娯樂費も人により區々で、その他の十圓は上

陸して家へ歸る交通費である。

普通船員の方は

被服費	一ヶ月	三圓—二〇圓
日用品費	同	五圓—一〇圓
家族仕送	同	二〇圓—五〇圓
娯樂費	同	二圓—二五圓
その他		一〇圓—三〇圓

となつて居り、被服費は高級船員の場合同樣作業服のみなら一ヶ月三圓位である。日用品も煙草が大部分で、家族仕送は高級船員同樣大部分が行つて居り、而かも妻子のないものも行つて居る。その額は給料の三割乃至四割のものが大部分であるが、これで父母兄弟を潤して居ることは非常に注目に價する。

普通船員の娯樂費は平均一〇圓位で、人に依つては給料の半分位を費消してゐるものもあるが、これは若い單身者が多い爲、色街等に捨てゝゐるやうである。

B 東京港へ入港後の動向

本船は東京港へ入港することは一ヶ月に一回位の割合であるが、各乘組員は調査者の質問に答へて、何れも眞面目に東京港へ入港した際の上陸後の動向を明らかにして具れた。これを以て東京港へ入港する全部の船舶の船員の動向と見ることは早計に失するも、大體のことは察することが出來る。

東京港に入港した船舶の碇泊期間は大部分が一晝夜位である。從つて一泊するのがせいぜいであり、本船の如きもその例からは免れてゐなかつた。

各乘組員の語るところを綜合すると、東京港には碇泊期間が短い上に、東京と云ふ文化都市を控へてゐるので、如何にして少い時間をより有效に使ふかと云ふことが一番惱まされることであると云ふことだ。普通海員と云へば「港々に女あり」で直ちに紅燈の街に出沒すると考へられる。從つて東京に於てもさぞかしさう云つたところに行くであらうとは誰しも直ちに想像するところであるが、事實はその反對で、地方などでは到底見ることの出來ない映畫とか演劇又はレヴューの如き娯樂に心を奪はれて仕舞ふ。單に紅い燈に親しむだけのことならば、地方の港で澤山であるとのことであつた。

從つて東京ではさうした娯樂の後で靜かに眠ることの出來る家庭的な海員ホームのあることは何より望ましいことであると彼等は一樣に語つてゐた。

各乘組員の答へた動向をその儘列擧すると次の如きものである。

(1) 高級船員

一、會社本船間の諸打合せ、本船狀況報告。他港では港灣施設、民情、商業上の視察其の他社交(船長)
一、外出しても買物する位、少し暇あれば圖書館行、映畫、芝居見物、撞球。
一、多忙にて寸暇なし(三等運轉士)
一、歸宅(東京に居所あるもの)
一、買物、知人訪問、時に芝居見物。

一、先ず映畫、芝居類の見物後は海員並。

(2) 普 通 船 員

一、親類、友人訪問、買物等。
一、酒場、銀座、淺草方面。
一、買物、散歩、街見物。
一、銀座、淺草方面、主として外泊。
一、日用品購入、散歩其他一杯。
一、圖書館行、買物、飲酒。
一、買物遊里。
一、上陸第一歩に一杯、散歩後色街。
一、買物、活動見物。
一、東京市内散歩亦活動に行く。
一、歸宅。
一、東京入港の時は日用品買ひ又は淺草にてオペラ見物か龜戸にも行く、歸りビール二三本のみにて船へ歸り眠る。

これは全部の例ではなく、似たりよつたりのものは代表的なものを掲げたのである。これにても解るやうに色街に行くものは極く稀れで、普通船員などは映畫、演劇を見た後か銀座、淺草方面を散歩した後、船へ歸つて眠るものがかなり多い。

日用品や仕事着なども東京へ這入つた時に求めてゐるものが多いやうである。

C 東京港への希望

各乘組員が東京港へ希望してゐるものは、海員ホームの建設と船が沖泊りの際の通船の合理化及び日用品購買部の建設等が大部分であつた。以て列擧しよう。

一、丸ビルの如き大ホームの中に廉價なる販賣店、娯樂場、集會所の如き設備を欲す。お役所の如き海員ホームは意味をなさす。
一、士官、普通船員別に氣持よい宿泊所を建設されたし、但し士官一泊一圓、普通船員五十錢位のこと、同宿泊所には綺麗な浴場、新聞雜誌の無料閲覽所設備のこと。
一、船員は家庭に惠まれざるものなり、小綺麗なるホームが必要。又社會と沒交渉になり易き故、船員の通行附近に最近の出來事の掲示場を設け、更に寫眞、出入船舶名の表示ありたし。又船内出張の特殊購買部を設けられたし。
一、船内出張販賣店を欲す。尙、參考迄に記すれば横濱は入港と同時に各必要品の註文を取り、出港又は入港翌日迄に夫々品物を屆く。但し商人は水上警察署にて特に許可ありたるものに限る。
一、購買部の設立(船内移動)出入港船の掲示所を欲す。(以上高級船員)
一、海員ホームの外、船内出張所を特設されたし。
一、東京は船員に對し認識不足なり。行く所なし東京港附近に疊の敷いてある大ホームを作られたし。
一、第一船内揚人夫の統制及時間減

第二手近き所に遊里を欲す

一、大宿泊所の設立、海員購買部の設置(多數)

一、二重生活の爲、費用甚大なり、本人は遊里に行くも年二回位なり。東京港への希望は物を易く得られることなり。

一、(1)現在のホームは宿泊本位なり。我等の望むホームは娯樂完備及庭園をも有するホームであること。

(2)夜間十二時に無料通船發航されたし。

一、ホームの市設。いゝ部屋を船員の爲安く貸し又家族室を設け遠國より家族上京の際貸與ふること。娯樂設備必要。

一、其他大ホームの必要、無料通船の設置を望むもの多し。

D 海員ホームに對する希望

調査者は以上の外、各地海員ホームの狀況などを例として各乘組員より海員ホームに對する希望を聽いたのであるが、東京港の如きは若し海員ホームを設ければ相當の利用者があるだらうと前提して、次の如き諸點を擧げて呉れた。

一、先づ宿泊料が安くて住心持良く。何でもホームでして呉れること。

一、門限など夜間十時頃のところが多いが、これでは折角利用したくとも利用出來ない。せめて十二時頃まで開けて欲しい。

一、大阪の海員ホームが失敗したのは失業海員や海員の各種免狀受驗生の常宿となり、その上船ゴロが泊つた爲で、海員ホームには必らず乘組員だけを泊めること。この方法を考究する要あり。

一、ホームの附帶施設としては低廉なる理髮場、撞球場その他娯樂場。日用品廉賣所、無料浴場等を望む。

E 其他

本船乘組員中、高級船員は海員協會に入會して居り、普通船員は新日本海員組合に加盟して居た。大體、船員になると直ぐ入會又は加盟して居る。

三 實地調査の結果

調査者は船內に乘組中、各船員の入港、出港、航海中の作業狀況等を實地に見聞した。その結果は次の通りである。

A 作業狀況

船員の作業は高級、普通を問はず、かなり忙しいものに見受けられた。但し航海中は甲板部は比較的暇であり、碇泊中は機關部が比較的暇であると云ふ一般的な見方は本船にも當はまる。

(イ) 出入港の際

船が出入港する場合は、船員は總動員で各種持場に就いてゐる。即ち船長はブリッヂにあつて操船の指揮をする。この際、三等運轉士は船長の側に在つて機關部との連絡等に當る。また舵夫一名ブリッヂに在り舵をとる。船尾には二等運轉士が指揮して舵夫の殘全員、水夫等が詰め船首同樣の作業をする。

船が港に這入る直前及び港を出た直後は甲板部屬員(普通船員)は荷揚人夫の作業準備または作業後仕末等をなす。これは諸機械の手入その他、ハッチの仕末等である。

以上は甲板部で、機關部は機關長以下當番のものは、船の出入港に必要な操作をなす。

（ロ）航　海　中

航海中は甲板部は先づ、士官は二等運轉士から三等運轉士まで各一名が交代でブリッヂに立つ。これをワッチと云つてゐるが、一ワッチの時間は四時間で、各人四時間ワッチに立ち八時間休息する。この外にブリッヂには舵夫が舵取機を握つて立つ。舵夫は四名、一ワッチ二名で、一ワッチは晝夜により違ふ。

その他の水夫は水夫長の命により一日八時間位を働く。

機關部は機關長と一等機關士及び二等機關士の三名が各更代で四時間宛ワッチに立つ。ブリッヂと連絡して船の速力を加減し、諸機關の運轉をなす。この際、油差は交代で機關士の側に於て諸機關に油を差す。火夫長及び油差二名、都合三名が四時間宛交代する。

火夫は所謂釜焚きと云つて、機關部の汽罐に石炭を焚く。これは極度の勞働で、六名の火夫が交代でやる。大體一晝夜八時間位の勞働である。

機關部は平常冬でも八十度位あり、盛夏は百二十度位に溫度が上るさうで、その勞働はかなり酷烈である。

（ハ）碇　泊　中

碇泊中は船長、機關長は暇で、上陸は自由であるが、あとはかなり忙しい。甲板部士官中一等運轉士は人夫との取引、荷主との取引を一手に引受けてやる。從つて日出より日沒まで忙しい。暇で上陸出來るのは夜間だけ。しかし荷役のないときは暇である。二等運轉士、三等運轉士は普通船員と共に船具の手入、船內掃除、ペンキ塗等をなす。普通船員は交代でハッチの見張り等を行ふ外、前記の作業をなす。その作業時間は一日一〇時間位である。

機關部は碇泊中は比較的暇で交代で上陸するものもあるが、機關士は一名、普通船員は三分の一は殘つてゐる。ドンキーと云つて碇泊中副汽罐を焚くものは航海中は餘り用はないが碇泊中は交代で石炭を燃してゐる。本船には二名ゐる。尙、上陸しないものは船內掃除、機關の手入をなす。

B　船　內　居　住　の　狀　況

各乘組員の船內居住狀況は高級船員は非常に優遇されてゐる。即ち高級船員は全部自己の居室を一室所有してゐる。

先づ船長はブリッヂの下、中央甲板上に二室有する。寢室と居室で、これは船長だけである。その他高級船員は中央甲板上に六疊位の部屋を有する。柵式のベットがあり、机と椅子があつて居心持よき部屋である。

普通船員は水夫長、火夫長は各一室を有するも他は十疊から二十疊位の部屋に四名乃至七名居住する。一方の隅は食事場になり、他の隅は柵式のベットが重つて居り、中央は休息所になつてゐる。各職分により部屋が分れてゐるが、全部船首に在る。

從つて船では高級船員を「トモの人」と云ひ、普通船員を「オモテの人」と云つてゐる。これは普通船員の部屋が船首にあり、高級船員の部屋が後に在るからである。（最近新造された船は全部中央部に在る）

船員が居室を居るときは鳥を飼つたり、犬を飼つたりする外、ラヂオ、蓄音機等を置き自ら慰安してゐる。また各居室に神棚の在つたことは注目に價した。

C　上　陸　の　光　景

港へ這入つて直ぐ上陸出來るのは前述の如く船長、機關長のみで、他のものは夕刻から上陸する。岸壁に着いた場合は直ち

に上陸出來るが、沖泊りの際はサンパンと稱する通船により陸と船の間を往復する。サンパンは大抵の港は日中（朝七時頃より夕七時頃まで）は會社が廻漕店等から傭上げて居るので無料であるが、その時間以外は一人三十錢位をとる。（但し、東京は日中も一人五十錢、夜間は一圓五十錢もとるとのことである。）

上陸する際、一寸した買物か使ひならば普通の作業服で行くが、いよ／＼本式に上陸して、船へ戻らうか、どうしようかと考へてゐるやうなときは、陸上のものと同じやうな服裝をする。中には新調の背廣服と云ふ瀟洒な風に、これが日中眞黑になつて働いてゐたものかと驚くやうなものもあつた。

上陸後の動向は既に述べた通りである。

（以　上）

昭和十一年八月二十八日印刷
昭和十一年八月三十一日發行

東京市役所

東京市芝區芝公園十五號地十一番
印刷者　勝田茂

東京市芝區芝公園十五號地十一番
印刷所　勝田印刷所